

国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校情報公開

(2015年度自己点検・評価結果)

目 次

1. 理事長挨拶
2. 中村学園について
 - 2-1. 学園の誕生
 - 2-2. 学園の歩み
 - 2-3. 学園及び学園グループの所在地と連絡先
3. 学園の財務状況
 - 3-1. 資金収支計算書
 - 3-2. 貸借対照表
4. 学校長挨拶
5. 学校について
 - 5-1. 学校の歩み
 - 5-2. 学校の所在地と連絡先
6. 入学者数と出身地
7. 教育
 - 7-1. 教育課程編成委員会
 - 7-2. 退学率
 - 7-3. 主要検定合格率
 - 7-4. 卒業後の進路
 - 7-5. 学校関係者評価委員会
 - 7-6. 教職員研修
 - 7-7. 教職員・講師
8. 学生支援
 - 8-1. SAM活動及びクラブ活動
 - 8-2. カウンセリング
9. 危機管理
10. 国際連携
11. 自己評価

※7-1、7-5のみ掲載

※2015年度自己点検・評価結果は年度終了後、すべての項目について情報公開
予定

7. 教育

7-1. 教育課程編成委員会

委員名簿

No.	構成※	氏名	所属先	役職	任期
1		瀧 潤一郎	国際トラベル・ホテル・ブライダル 専門学校	校長	2年
2		矢口 博士	国際トラベル・ホテル・ブライダル 専門学校	教務・就職室長	2年
3		千葉 山	国際トラベル・ホテル・ブライダル 専門学校	広報・学務室長	2年
4		北 和樹	国際トラベル・ホテル・ブライダル 専門学校	教務・就職室 リーダー	2年
5		澤田 唯之	国際トラベル・ホテル・ブライダル 専門学校	教務・就職室 ホテルチーム リーダー	2年
6		足澤 永子	国際トラベル・ホテル・ブライダル 専門学校	教務・就職室 ブライダルチー ム リーダー	2年
7		湊 さやか	国際トラベル・ホテル・ブライダル 専門学校	教務・就職室 エアライン・語 学チームリーダ ー	2年
8		竹ノ谷 卓也	国際トラベル・ホテル・ブライダル 専門学校	教務・就職室 夜間チーム リーダー	2年
9	③	石井 光彦	株式会社旅行綜研	常務取締役・ 営業本部長	2年
10	③	酒井 大之	東日観光株式会社船橋支店	支店長	2年
11	③	只隈 修一	株式会社日本旅行千葉教育旅行支 店	リーダー	2年
12	③	山口 晋司	千葉都市モノレール株式会社	総務部次長	2年
13	①	下河 浩	一般社団法人 日本旅行業協会 関東支部 千葉県地区委員会	委員長	2年
14	③	船曳 勇一	株式会社千葉京成ホテル 京成ホテルミラマーレ	取締役総支配人	2年

15	③	橋本 喜則	ヒルトン東京ベイ	副総支配人	2年
16	③	山下 裕乃	株式会社オータパブリケーションズ	部長	2年
17	①	飛田 和子	B1A 公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	人材育成委員会委員	2年
18	③	鈴木 繁	株式会社ジャッツ成田空港事務所	副所長	2年
19	①	松本 克己	一般財団法人成田国際空港振興協会	総務部総務課課長	2年

※①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体の役職員

②選考分野に関する学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2015年度実施の委員会議事録は次の通り。

2015年度第1回 議事録		作成日	2015年12月11日(金)
		作成者	瀧 潤一郎
会議名	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 教育課程編成委員会		
開催日時	2015年12月11日(金) 13:30～15:00	開催場所	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校
参加者 ※順不同	石井 光彦氏 (株式会社旅行綜研)	瀧 潤一郎 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)	
	酒井 大之氏 (東日観光株式会社)	矢口 博士 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)	
	只隈 修一氏 (株式会社日本旅行)	千葉 山 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)	
	山口 晋司氏 (千葉都市モノレール株式会社)	立石 智之 ※北トラベルチームリーダー代行 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)	
	下河 浩氏 (一般社団法人日本旅行業協会)	澤田 唯之 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)	
	船曳 勇一氏 (株式会社千葉京成ホテル)	足澤 永子 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)	
	飛田 和子氏 (日本ブライダル振興協会)	竹ノ谷 卓也 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)	
	鈴木 繁氏 (株式会社ジャッツ)		

議 題	松本 克己氏 (一般財団法人成田国際空港振興協会)	
	1 学校長挨拶・当委員会目的・主旨及びメンバー紹介	進行：瀧 潤一郎
	2 各科における教育カリキュラム概要説明	書記：千葉 山他
	3 各科における教育カリキュラムについての意見交換	
	4 次回開催日程の確認	

議事の経過要領

- 1、定刻、進行役が開会を宣し上記の通り定足数に足る委員の出席があったので、本委員会は適法に成立した旨を述べ、直ちに議案の審議に入った。
- 2、議題1に関して瀧校長より挨拶。
 - ・文科省関連資料を用いてメンバーに説明があった。資料中「その1～5」について説明があった。
 - ・全国の専門学校における職業実践専門課程認定の状況について言及した。
 - ・職業専門大学について言及した。
 - ・14年度の職業実践専門課程におけるデュアル科及びホテル科認可についての報告を行った。認可以前から現在の実習等連携の体制はあったが、今後も企業実習を中心に企業連携についてメンバーに依頼し協力的な同意を得た。
 - ・委員会目的・主旨説明
 - ・学科ごとの申請にあたり今回は分科会を設定した旨を伝える
 - ・来年度トラベル科、鉄道科、エアライン科、語学集中科申請予定。
- 3、2015年度委員会メンバー紹介
- 4、議題2に関して、14年度シラバス及び15年度シラバス案を資料とし、各科・各コース（トラベル、鉄道、テーマパーク、ホテル、ブライダル、エアライン、語学）のカリキュラムについて、企業全員から意見の吸い上げを行った。分科会形式で運営し、各分科会で議事をとった。内容は以下の通り。
 - 分科会【トラベル・鉄道分科会・デュアル（トラベル）】
 - 出席者：合計7名
 - 企業（5名）：石井、酒井、只隈、下河、山口 ●学校（2名）：瀧、立石（議事）
 - ①瀧校長より現学科カリキュラム構成の概要説明
 - ・専門性を持たせた教育を実施しており、学園5校の中では特に人間性、社会人教育を重視している。
 - ・他校では技術がメインとなってくるが、当校はホスピタリティマインド・職業観・臨機応変の部分を重要視している。
 - ・国際性を併せ持つ社会人教育を共通カリキュラムとして組んでいる。
 - ②各企業からの意見
 - ・石井→本学生の印象としては「素直さ、まじめ、大人しい」

議事の経過要領

職場へは実習等を通して現場視点を身に付けてもらっているが、昨今の状況から語学力が特に必要であり、若干語学力が弱く感じられる。

→英語を単なる語学勉強としてとらえず、コミュニケーションツールの一環として捉えてもらうためのカリキュラムを設定している（昼間部全学科共通必修科目＝Let's Speak English）。但し当校の学生は総じて語学に関しての苦手意識が高いのが現状である。

- ・山口→入社後に現場職から管理職へ異動となった際には「経営としての意識」や「危機意識・改善意識」が必要であり、現場では活躍できるが経営側に回った時に苦勞する印象がある。欲しい人材としては将来的に競争力や管理側に移った時の発言する力がある人材。

→就職後は現場で働くという意識が強く、マネジメントをする意識や将来を見ての経営を学ぶ機会が少ない。一部「職業とキャリア」を通して話す学生に経営までは難しいか。今後検討。

- ・下河→トラベル科カリキュラムで発信型ビジネスを学ぶ科目は多いが、着地型ビジネス（訪日旅行・MICE等）を学ぶ科目が少ない印象。資格取得に特化した内容となつてはいるが、現状の旅行業では様々な職種やアプローチがあり、旅行総論として授業をしてみてもどうか。特に時刻表実務の時間数が多く感じる。

→前から国家資格を取得する事に合わせたカリキュラム内容となっており、ほぼ前から前年踏襲を繰り返している。時代に合わせた科目の見直しも必要である。

- ・酒井→東日観光では特に女性の営業を多く求めており、コミュニケーション力を持った人材を希望最近は「男性の強さ・たくましさ」を持った男性職員が少ないように感じる。

- ・只隈→国家試験取得に向けたカリキュラムになっているが、営業として現場での基本的スキル（原価と見積もりの関係や利益計算等）を学べる内容が入るとよいのでは。時代のニーズに合わせた旅行内容を学ぶ機会があると良い。

- ・企業実習について

- ・只隈→インターン等で大学生を預かる事もあるが、慣れてきた頃に期限となってしまうので受入が厳しい。学生に行ってもらえる仕事が少ない。

→鉄道系は店舗スタッフとして需要があるが、トラベル系は現在空港以外の実習先がなく、イベント時のスポットとして必要な場合には学校側としては是非各企業様よりお声掛けが欲しい。

- ・その他

- ・石井→インバウンド需要に際して留学生の活用や、留学生の日本人との交流を今後どのように行っていくかを検討すると良いのでは？

■分科会【ホテル・ブライダル・デュアル（ホテル）】

議事の経過要領

●出席者：合計 5 名

●企業 (2 名)：船曳、飛田 ●学校 (3 名)：足澤、澤田、千葉 (議事)

①各科カリキュラム概要説明と意見交換

●ホテル科

・澤田リーダーより 2016 年度カリキュラム案概要説明

・新科目：ホテル総論 (H 検対策)

・資格：HRS、ホテル実務、ホテルビジネス (H 検)

・中国語、韓国語

・企業実習

・意見交換；

・バリアフリー：サービス介助士 2 級 (2 日間の講習・試験) + 授業「バリアフリー」(船曳)

・YMCA (高田馬場) 長期実習が効果的 (ex1 年 9 月～12 月 (4 か月)) (船曳)

・判断力 (判断がつかない場合は保留にする対応力) (飛田)

・同性婚の申し込み、ハラル対応等世の中の流れを受けて授業や学生教育に生かしたい (飛田)

・宿泊より FB をより深めてほしい (船曳)

・コンシェルジュ (多言語対応) 対応科目を入れてほしい (船曳)

・プロトコル対応科目を入れてほしい (船曳)

●ブライダル科

・足澤リーダーより 2016 年度カリキュラム案概要説明

・ブライダル国家資格化へ

・「ブライダル業界検定スタートアップ支援事業」として進行中

・BIA 主催/ABC 検定及び BC 検定からの移行。

・業界はブライダルのみならず、ホテル、教養等広い範囲で教育していくことが必要

・意見交換；

・専門学校生は国家資格 2 級は挑戦できる (3 級も検討中の情報あり) (足澤)

・トータル教育を目指してほしい (飛田)

■分科会【エアライン・語学・デュアル (エアライン)】

●出席者：合計 4 名

●企業 (2 名)：鈴木 (繁)、松本 ●学校 (2 名)：矢口、竹ノ谷 (議事)

①学校が進める職業教育内容の概要説明後、当校在校生、卒業生に対する希望など

・松本：卒業生の話しでは、学校で学んだ全てが役立っており学校での生活には大変満足をしているとのこと。職員と学生の関係性も良好であることがよくわかった。今後も、こうした卒業生の力を更に活用していくべき。

議事の経過要領

⇒学校として行事や授業へのゲスト出演などの実績をお話し、今後も継続協力頂く旨を確認した。

- ・鈴木：成田市内住民の空港アルバイト希望者が減っている状況がある。(イオン、アウトレットなど地元でのサービス系アルバイト求人が増えた、空港独特の早朝、深夜のシフト、高い語学スキルを求められる点など)しかし、大学生アルバイトなどと比べると実習生はモチベーションが高い。一方で離職率の高さなど企業として取り組むべき課題も高い。入学から就職までに仕事、会社にズームインしていく流れを作ることが早期離職防止に役立つのでは？企業内でも新人受入れ教育や保護者対応などの苦勞が多い。

⇒憧れだけではなく、働くことやその仕事の意義とやりがいなどを学生へ理解させる授業や指導を継続していく。また保護者についても就職保護者説明会などで学校と企業の違いを説明する。

②他校や大学生との違いや差について

- ・鈴木：大学生はサークル活動などの影響から友人やOB・OGとの繋がりが強い。
- ・松本：仕事への華やかなイメージや憧れはどちらも変わらない。早期就業システムは少人数での新人教育が出来る為、企業として非常に助かる。(15年度採用は専門3名、大学2名)

⇒今後も卒業生と在校生だけでなく、業界内の卒業生同志の交流なども学校として検討していきたい。早期就業については今後も継続。企業様との連絡も密にしていきたい。

③企業の求めるものについて

- ・鈴木：言葉遣い(日本語)、救急救命は必須にし何度も体験することでイザという時に行動できるようにしたい。
- ・松本：英語力は当然だが、韓国語、中国語も欲しい。学校の授業に取り入れているのは他校も同じだが、本当に好きで勉強していないと成果は上がらないのではないかと。実際に使えるレベルになっている学生はほとんどいない。まずは興味を持たせる事(文化など)から始めてみてはどうか。

- ・鈴木：そうして好きになった学生であれば、毎日補講をするなどで使える語学力となり、企業評価は大変高いものになると思う。

- ・松本：学生の人間力向上は重要だが、1年間で差が分かるレベルになるのか疑問である。しかしながら絶対に必要なことであることも間違いない。

⇒語学に対する企業様の求めに今後もより結果の出る教育を検討していく。救急救命はエアライン科が授業として導入しているが、ご指摘の通り、いざという時に自分が救命にあたるように継続した振り返りなども視野にいれたい。初めての分科会という試みであったが、企業様の学校に対する求めや希望がよ

議事の経過要領

り現場視線で投げられた内容であった。今後もこうした委員会だけでなく、様々な機会で見聞交換などができるように学校として取り組んでいきたい旨を伝え、分科会を終了した。

- 5、次回開催日程の確認と議案事項が検討された。次回は2016年2月22日(月)13:30～
6、以上をもって本日の議事が終了したので、委員長は閉会を宣した。

以上

2015年度第2回 議事録

作成日 2016年2月22日(月)

作成者 瀧 潤一郎

会議名	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 教育課程編成委員会	
開催日時	2016年2月22日(月) 13:30～15:00	開催場所 国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校
参加者 ※順不同	石井 光彦氏 (株式会社旅行綜研)	瀧 潤一郎 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)
	山下 裕乃氏 (株式会社オータパブリケーションズ)	矢口 博士 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)
	只隈 修一氏 (株式会社日本旅行)	湊 さやか (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)
	山口 晋司氏 (千葉都市モノレール株式会社)	立石 智之 ※北トラベルチームリーダー代行 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)
	下河 浩氏 (一般社団法人日本旅行業協会)	澤田 唯之 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)
	船曳 勇一氏 (株式会社千葉京成ホテル)	足澤 永子 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)
	飛田 和子氏 (日本ブライダル振興協会)	竹ノ谷 卓也 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)
	鈴木 繁氏 (株式会社ジャッツ)	北 和樹 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)
	松本 克己氏 (一般財団法人成田国際空港振興協会)	
	1 学校長挨拶	進行：瀧 潤一郎
	2 各科における教育カリキュラム概要説明	書記：矢口 博士他
	3 各科における教育カリキュラムについての意見交換	
4 次回開催日程の確認		

議事の経過要領

- 1、定刻、進行役が開会を宣し上記の通り定足数に足る委員の出席があったので、本委員会は適法に成立した旨を述べ、直ちに議案の審議に入った。
- 2、議題1に関して瀧校長より挨拶。
 - ・文科省関連資料を用いてメンバーに説明があった。資料中「その1～5」について説明があった。
 - ・全国の専門学校における職業実践専門課程認定の状況について言及した。
 - ・職業専門大学について言及した。
 - ・14年度の職業実践専門課程におけるデュアル科及びホテル科認可についての報告を行った。認可以前から現在の実習等連携の体制はあったが、今後も企業実習を中心に企業連携についてメンバーに依頼し協力的な同意を得た。
 - ・委員会目的・主旨説明
 - ・学科ごとの申請にあたり今回は分科会を設定した旨を伝える
 - ・来年度トラベル科、鉄道科、エアライン科、語学集中科申請予定。
- 3、2015年度委員会メンバー紹介
- 4、議題2,3に関して、15年度シラバス及び16年度シラバス案を資料とし、各科・各コース（トラベル、鉄道、テーマパーク、ホテル、ブライダル、エアライン、語学）のカリキュラムについて、企業全員から意見の吸い上げを行った。分科会形式で運営し、各分科会で議事をとった。内容は以下の通り。

【トラベル・鉄道分科会・デュアル（トラベル）】

■出席者：合計6名 ・企業（3名）：石井、山口、只隈、・学校（3名）：瀧、北、立石
（敬称略、順不同）

I. 校長：瀧より前回の振り返り

→前回会議にて課題として下河様よりいただいた「時刻表実務」授業時間数について、時刻表を引く作業だけでなく、冊子に掲載されている内容を含めた総合知識を学ぶ科目として行っている授業である。

II. 各企業様からのご意見

□企業連携について

校長：瀧→ホテル系は夏/冬の長期休暇に実習制度があり、業界としても需要と供給が合っているが、旅行系に関してはどのようにすれば良いか。一部鉄道は駅業務等がある。

・只隈様→各種大学からも話があるが、現場としては出来る事が少ないのが現状である。季節によっては大型団体等がある場合に短期での受け入れは可能かもしれないが、毎年必ず仕事があるという保証がない。また繁忙期(4～6月、9～11月)は学校は授業があるので厳しいのが現状か。

また、営業という仕事なので日中は社内におらず仕事が発生するのが夜となってしまう。会社として残業時間短縮を行っているのに、実習生を夜まで残す事

議事の経過要領

が厳しいと考える。

校長：瀧→現在はホテル系と合わせて長期休暇を夏と冬にしているが、今後は旅行系とホテル系で授業スケジュールをずらす事も視野に入れてもよいのではないか。また、多くの大学がインターンとして無償で行っている事を考えると必ずしも費用（賃金）を発生させなくても良いと考える。

- ・山口様→以前は朝の改札場所での挨拶を学生に依頼していたが、経営者の考えにより中断している。理由は現場職員がお客様に対して接客をするという意識改革を社内で行う為である。従って依頼できる仕事としては社外イベントの手伝いや車両見学ツアーのスタッフ、東京ビッグサイトの模型展等で半日や1日の手伝いは無償（交通費+昼食は別途支給）であれば出来るのではないか。

校長：瀧→会社を知るという意味では良い機会になる。会社の業務として多方面に渡る展開を考えたり知る機会になる。

- ・石井様→純粋な旅行業ではなく、旅行関連の仕事の多い会社であるから当てはまるか分からないが携帯レンタルやセンディング・ミーティング業務は可能かもしれない。T/C はプロとして扱う為学生にはどうか。会社が東京なので通勤にも時間がかかり、且つ旅行としての仕事に対して学生がギャップを感じてしまうのではないか。

北→「業界ガイド」等の授業内で、旅行業はより多くの業務がある事を伝え、学生のギャップをなくしていく事が必要。雇用形態や社会保険等も含めて旅行業としての仕事とは何かを整理して学生へ伝える事が重要である。

石井様→旅行業を広くとらえて「観光産業」として捉える事が必要である。

校長：瀧→「旅行」という枠ではなく「観光関連」の実習として、旅行のボランティア、地域貢献、地域活性化するためにはどうするかを考え学校内で2週間程度での実習を制度化する必要性もある。また、業界研究の必要性や観光産業関連として幅広い業務を考え、これから各社との企業連携を行っていく事が大切だと考える。

【ホテル・ブライダル・デュアル（ホテル）分科会】

■出席者：合計5名 ・企業（3名）：船曳、飛田、山下、・学校（2名）：足澤、澤田
（敬称略、順不同）

- ・足澤リーダーよりブライダル科2016年度カリキュラム案概要説明

<ブライダル科コース設定について>

1. ウエディングプランナーコース

ホテル、専門結婚式場での就職を目標としての実務レベルでの技術、知識を中心としたカリキュラム料飲部門、宿泊部門の技術を中心とした授業内容で1年次は行う。

2年次はプランナー業務を中心とした内容で授業を行う。

議事の経過要領

2. ビューティースタylistコース

ドレスコーディネーター、ジュエリーコーディネーターでの就職を目標としての実務レベルでの技術、知識を中心としたカリキュラム

1年次前期はプランナー業務と同等のカリキュラムにて行い、後期より専門的なカリキュラムへと移行していく。

また、両コース共に通常授業とは別にブライダルレッスンデーを各期で儲け、現場での企業研修をはじめ業界のプロからの指導を受ける授業を行う。

<ブライダル科の検定試験について>

飛田様→今後はABC検定、BC検定を1～3級のレベルに分け認定をする方向で検討している。

1. ABC検定試験（3級）について

- ・現在、国家資格としての申請の手続き準備を行っている。予定としては、1～2年後には正式に国家資格としての認可が下りる予定。受験資格については、現在調整中となっているが、専修学校生受験は2年次の冬（1月頃）のみ可能となる予定。

2. BC検定（2級）（1級）試験について

現段階では、具体的な基準は定まっていないが可能性としてそれぞれの級に対して、就業年数などの基準を設けることが予想される。

<実習について>

足澤リーダー→2015年度はホテル科、ブライダル科共にホテルでの企業実習を実施したが2016年度学生より専門結婚式場の実習を新たに開拓していく予定。（チェルシーコートおゆみ野、セントグレース千葉他）

山下様→4年制大学、短期大学ともに就職先としてゲストハウス人気下がってきている傾向にある。従ってスタッフが不足している状況の為、多くのゲストハウスにて実習受け入れの可能性が高い。（ディアーズブレイン等）

【エアライン・語学・デュアル（エアライン）分科会】

前回の振り返り

救急救命について

⇒15年度よりエアライン科では1年次の7月に赤十字救急員救命法の基礎講習を受講。

心肺蘇生法やAED使用方法を学ぶが、卒業後現場デビューするまでのタイムラグは否めない。

- ・松本→成田市消防が企業派遣で時々講習をしてくれる。

議事の経過要領

語学教育について

⇒エアライン科では TOEIC 対策授業を週 3～4 コマ実施。授業以外でも、自ら継続して勉強できる学生が成果を出している。15 年度より、研修旅行を 5 泊 7 日の海外旅行から 2 週間の語学留学に変更。英語コミュニケーション対策としては、ネイティブの会話授業を週 2 コマ、共通必須の Let's Speak English と併せると週 4 コマ実施している。

- ・松本→旅客案内業務では採用目安として TOEIC550～600 点、英検 2 級としているが、専門学校生は入社してからの伸びしろも考慮して採用する。
- ・鈴木→センディング業務では語学力は二の次であり、まずは成田空港へ通えるかが重要。添乗業務では TOEIC550～600 としており、英文の Itinerary を理解する読解力が必要⇒英語以外の言語（中国語や韓国語）を得意とする学生はどうか。
- ・松本→状況により活躍の場はあるが、やはり英語がある程度は出来ることが前提。2020 年パラリンピックに向けて、手話の出来る人材が求められている。
- ・鈴木→聴覚障害者ツアーである添乗員が英語から日本語と手話に同時通訳をしたところ、健常者と障害者が同じタイミングで理解し、頷くことが出来たと感謝状を頂いた経験がある。年末年始に実施した空港でのモバイルキャンペーンの例でいうと、外国人観光客はどこの国籍でもまずは英語で話しかけ、その後踏み込んだ説明になると中国語や韓国語が重宝された。ハラルなど宗教に関する知識について
⇒昼間、夜間ともに、エアライン実務などの授業内の数コマでハラルなどに対応。
- ・鈴木：インバウンド旅行客では東南アジアは宗教、欧米はアレルギーに神経質であると言われている。今朝到着したブルネイからの団体旅行客 20 名のうち、8 名が空港の礼拝室を利用した。

実習について

⇒実習とは、企業側から評価をして頂き、また有償となる。無償のボランティアも含め、可能性はあるか。

- ・松本→空港案内ボランティアというものがあり、シルバーが多数ではあるが、200 名近く登録者がいる。また、成田市の中高 10 校程度対象ではあるが、3～5 日間の職場体験を実施しており、神田外大が参加したこともある。
- ・鈴木→旅行業ではウェブ予約が主流となり店舗が減少。実習内容はウェブ予約の裏作業となる。また、Eチケットを使用するようになり、センディング業務も全盛期の 6 分の 1 に減少。
- ・松本→時々中学校などで旅客案内のお仕事紹介をしている。
→来校授業は人員調整が困難とのことなので、16 年度に ALD での企業訪問をお願いしたい。
→ 職員の実地研修もお願いします。

議事の経過要領

5、次回開催日程の確認と議案事項が検討された。次回は2016年2月22日(月)13:30～

6、以上をもって本日の議事が終了したので、委員長は閉会を宣した。

以上

7-5. 学校関係者評価委員会

委員名簿

No.	氏名	所属先	役職	任期
1	瀧 潤一郎	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校	校長	2年
2	矢口 博士	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校	教務・就職室長	2年
3	千葉 山	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校	広報・学務室長	2年
4	足澤 永子	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校	ブライダルリーダー	2年
5	原田 正隆	株式会社まちづくり商会		2年
6	小亀 さおり	千葉県経済農政局経済部集客観光課プロモーション班		2年
7	山口 晋司	千葉都市モノレール株式会社	総務部次長	2年

2015年度実施の委員会議事録は次の通り。

2015年度第1回 議事録		作成日	2016年2月17日(水)
		作成者	瀧 潤一郎
会議名	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校・学校関係者評価委員会		
開催日時	平成28年2月17日(水) 13:30～15:00	開催場所	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校
参加者	原田 正隆氏 (株式会社まちづくり商会)	瀧 潤一郎 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)	
	小亀 さおり氏 (千葉県経済農政局経済部集客観光課)	矢口 博士 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)	

議 題	山口 晋司氏 (千葉都市モノレール株式会社)	千葉 山 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)
		足澤 永子 (国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校)
	1 当委員会主旨及びメンバー確認	進行：瀧 潤一郎
	2 職業実践専門課程について	書記：矢口 博士
	3 当校重点方針	
	4 その他	
	5 次回開催日程の確認	

議事の経過要領	
1、定刻、進行役が開会を宣し上記の通り定足数に足る委員の出席があったので、本委員会は適法に成立した旨を述べ、直ちに議案の審議に入った。	
2、メンバーご紹介（一般）	
●原田 正隆（はらだ まさたか）様	
・まちづくりの推進、NPO・ボランティア団体の支援をする民間会社の代表	
・千葉市民活動支援センター専門相談員も務める	
・株式会社まちづくり商会 事業内容（※名刺から引用）	
-まちづくり、計画づくりのコンサルティング	
-ワークショップ（住民参加型会議）等の企画・運営	
-各種講座・研修、講師派遣	
-NPO 業務支援、スモールビジネス支援（オフィス紹介、運営）	
・まちづくりは住民が主役になるべきである。	
●小亀 さおり（こかめ さおり）様	
・千葉市経済農政局経済部 集客観光課に所属	
・ブログやイベントを通じ、千葉市、5つの海辺（幕張・検見川・いなげ・千葉みなと・曾我）の魅力を発信	
・5BEACH エンジェルス（5つの海辺から千葉を盛り上げていこう）観光大使として活動	
・幕張の浜ご担当	
・長年にわたる海外（シンガポール）生活の経験から英語で千葉の魅力を伝えていきたい。	
・2020年のオリンピックが一大イベントであることを学生にも伝えていきたい。	
●山口 晋司（やまぐち しんじ）様	
・千葉都市モノレール株式会社 総務部次長として在職	
・千葉みなと駅から県庁前駅を結ぶ1号線と、千葉駅から千城台駅を結ぶ2号線の2路線を持つ。総営業距離 15.2km を結ぶ鉄道会社	

議事の経過要領

- ・懸垂式モノレール
- ・千葉への集客ツールとして、アニメキャラクター等のラッピングモノレールを運行している。
- ・乗りに来るため（乗車）の目的を作っている。
（キャンペーンガールからの情報発信、外国人留学生から自国への情報発信など）

3、委員長選出について

- ・学校職員以外で委員長を原田正隆様をお願いしたい。
- ・千葉市に関係する企業の方、卒業生など、今後、メンバーを増やしていきたい。
- ・全会一致で委員長に原田様の就任が決定 ※任期 2 年

4、職業実践専門課程について

●職業実践専門課程とは

文部科学省の新たな枠組みの趣旨を専修学校の専門課程において活かしていく、先導的なチャレンジとして「職業実践専門課程」を創設。認可校の中で企業や業界団体と密接に連携して、実践的な知識・技術を身につけられる職業教育に取り組む学科を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する。

●認定要件とは

- ① 企業等が参画する「教育課程編成委員会」を設置してカリキュラムを編成している
- ② 企業等と連携して、演習・実習等の授業を実施している
- ③ 企業等と連携して、最新の実務や指導力を修得するために教員研修を実施している
- ④ 企業等が参画して学校評価を実施している
- ⑤ 学校のカリキュラムや教職員等についてホームページで情報共有している
- ⑥ 総授業時間 1700 時間以上、学ばせている

●千葉県内における職業実践専門課程認定校について

- ・全国 2812 校中、千葉県内では 88 校が認定校
- ・学科別の認定となっており、現時点では昼間部ホテル科、夜間部デュアル科の 2 学科のみ認定されている。

●学校関係者評価委員会運営について

- ・年 1 回の開催
- ・どういったことに重点を置いて教育にあたっていたのか、成果はどの位、達成できたか、報告をさせていただきたい。
- ・基本は在校生に対して、年度末にあたる 2 月初旬に「学校生活アンケート」、「授業改善アンケート」を実施し、その集計結果（評価結果）をもとに説明をさせていただきたい。
※6 月予定

議事の経過要領

●就職内定状況

- ・2016年1月末時点での就職内定状況
 - 日本人：昼間部 92.8%、夜間部 81.8%
 - 留学生：47.4%（38人中18名）
- ・留学生内定率に関しては卒業までに50%ほどになる予定。また、募集、中退率、就職内定率の全てが好調である。

●年間行事のご案内

※前期（4・5・6・7月）、後期（10・11・12・1・2月）の2期制

開催日	対象学生	行事内容	備考
04月07日	全学科	入学式	於：千葉県文化会館
04月13日	全学科	授業開始	
06月26日	ITHB、HPY	スポーツ大会	於：千葉ポートアリーナ
07月10日	昼間部	前期授業終了	
07月13日～	昼間部	前期期末試験	
07月21日～	昼間部	夏季休暇開始	
07月21日～	昼間部 H1&B1	企業実習（～8/30）	
07月24日	夜間部	前期授業終了	
07月26日	全学科	カナダ留学（1名/6wks）	
07月27日～	夜間部	前期期末試験	
07月29日	夜間部	夏季休暇開始	
08月02日	全学科	カナダ留学（1名/4wks）、セブ留学（1名/4wks）	
08月22日	トラベル、テーマパーク科	課外活動Ⅰ・Ⅲ	風船パフォーマンス
08月26日	外部	キッズハッピープロジェクト	小学生向け職業体験
08月31日～	全学科	前期補講・再評期間	
09月01日～	全学科	サービス介助士検定	
10月07日	全学科	メルボルン留学（2名/48days）	
10月16日	全学科（F1除く）	就職ガイダンス	
10月31日～	全学科	文化祭	約2500人来場
10月10・12日	外部	葛城中学校職業体験	中学生向け職業体験
12月07日	全学科	年内授業終了	

議事の経過要領

12月23日	外部	キッズ・ハピートプロジェクト	小学生向け職業体験
01月20日	全学科	SAM イベント	於：千葉ポートアリーナ
02月05日	全学科	後期授業終了	
02月08日～	全学科	後期期末試験	
02月22日～	全学科	後期補講・再評価期間	
03月01日	全学科	卒業判定会議	
03月07日	全学科	卒業研究プレゼン発表（18名）	
03月17日	全学科	卒業式	於：シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル
03月22日	全学科	SAM イベント	清掃ボランティア
03月30日	内部	集中全体会議	

6、意見交換・質疑応答

【山口様】採用に携わっており、質問をさせていただきたい。いつから就活がスタートするのか。また、年間行事で行われている企業実習が就活にどの程度左右されているのか。

【瀧】本校では、10/16に就活のキックオフとし、本格始動するのが、2/23（2月末）からスタートする面接対策等で学生指導を行っている。早い学生だと、3月末あたりに内定が出るが、5～6月頃からピークを迎える。

【山口様】高等学校の場合、就職協定があり、9/16からとなっている。
最近、高等学校を回っても普通科からの就職希望はほとんど見られない。
（進学希望がほとんどなのか。）

【瀧】全国における大学進学率 52～53%と認識している。

【山口様】専門学校学生の場合、大学生と同じ土俵での就職採用となるが、不利に働いてしまうのだろうか。

【瀧】そういった意味でも、（専門学校は）サポートする役割を持っている。

【山口様】4大生が変化をしている。戦いを嫌う学生が多い。
勉強は勉強、就職は就職という考え方で入社を希望している学生が増えている。

【瀧】「不本意入学」の学生や、職業観を持たない学生が増えている。

【小亀様】人間力が育っていけば良いと思う。

【瀧】若者が受け身である。考える習慣、（学生自身で）考えることを日頃から授業にも取りいれている。

【原田様】普段、会わない人との接点をもつべきだと思う。NPO・ボランティア団体の組織運営や活動の企画に学生も携わる等も良いのではないだろうか。

議事の経過要領

【瀧】 「千葉県」と「千葉市」との連携は取れているのでしょうか。

【小亀様】「千葉市」を伝える難しさを実感しています。「幕張市」があると思っている方もいらっしゃると思います。

【矢口】 次回の会議に向けて弊社へのご要望（ご意見）や議題に挙げたいことはありますか。

【瀧】 まもなく、「学校生活アンケート」、「授業改善アンケート」の集計結果を皆さま宛てにお送りいたしますので、その内容をご覧いただき、次回会議内容に繋げていただけたらと思います。

7、次回会議日時：6月を目安に開催予定

以上